

電気・精密機器

1. 評価対象企業（23 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門（8 社）】

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、シャープ（再評価）、ソニー

【電子部品部門（6 社）】

日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門（9 社）】

富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、ニコン、オリンパス、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン
(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	14
計		20	100

(注) 評価項目の内容および配点は 62 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 73 名（所属先 35 社）である。（63 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（58～61 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**ほか 3 分野において、内容変更、配点変更を行い、評価を実施した。また、評価対象企業の変更（再評価（注））もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 73.2 点（昨年度 72.2 点）、総合評価点の標準偏差は 7.3 点（昨年度 6.7 点）であった。

(注) 「再評価」企業とは、2 年以上前に評価対象としたことがある企業をいう。

- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高い方から、精密機器部門（9 社）が 74.0 点（昨年度 70.8 点）、電子部品部門（6 社）が 72.9 点（昨年度 74.2 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（8 社）が 72.6 点（昨年度 72.4 点）となった。昨年度に比べ、精密機器部門は上回ったが、電子部品部門はわずかに下回った。なお、産業・民生エレクトロニクス部門はほぼ同水準であった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 73%）、**説明会等**が 74%（昨年度 73%）、**フェア・ディスクロージャー**が 84%（昨年度 80%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 70%（昨年度 69%）、**自主的情報開示**が 64%（昨年度 65%）となり、昨年度同様、他の分野に比べて、**自主的情報開示**が低水準となった。

- ④ 評価項目について見ると、全 20 項目のうち次の 4 項目が 85%以上の平均得点率となり、高水準となった。
- (a) 「決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等）が、適切に記載されていますか」（平均得点率 93%）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：100%18 社）
 - (b) 「説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応（和英同時通訳、英語による開催あるいは事後の英語によるスクリプトの提供）が実施されていますか」（平均得点率 90%）（得点率：100%17 社）
 - (c) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 88%）（得点率：90%台 13 社・80%台 8 社）
 - (d) 「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか」（平均得点率 85%）（得点率：90%台 6 社・80%台 13 社）
- ⑤ 一方、次の 2 項目は、平均得点率が 65%以下となり、低水準となった。
- (e) 「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 61%）（得点率：30%1 社・40%台 3 社・50%台 6 社）
 - (f) 「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか」（平均得点率 65%）（得点率：50%台 6 社・60%台 8 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ソニー（ディスクロージャー優良企業〔4 回目〕、総合評価点 84.4 点〔昨年度比+4.5 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）86%）、説明会等（87%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（94%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 3 位（81%）、自主的情報開示が第 6 位（72%）となった。フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点の上昇につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社長または会長が会社主催の説明会に出席していること」が評価されたことに加え、「同説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していること」が高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること」も評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルール of 趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が評価された。加えて、「経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮がされていること」が高い評価となった。なお、映画・音楽分野について開示が充実し、有意義な議論が可能となったとの声がある一方、ゲーム分野の情報が不足しているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が最も高く評価されたことに加え、「同説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」が評価された。また、「決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていること」が最も高く評価されたことに加え、「決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等）が適切に記載されていること」が満点評価となったほか、「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていること」も最も高い評価となった。さらに、「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」および「売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていること」が共に評価された。これらに関し、補足資料の内容が充実しているとの声が寄せられた。なお、説明会における質疑応答の時間が少ないとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に関し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が高く評価された。また、「ウェブサイト財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していること」も高い評価となった。さらに、「説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応が

実施されていること」が満点評価となった。なお、説明会のウェブ配信を評価する声があった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。ただし、金融子会社への出資比率引き上げ等の説明が不十分との声があった。また、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」も評価された。さらに、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」も評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」が最も高い評価となった。これに関し、「経営方針説明会&IR Day」、主力工場見学会が有益であったとの声が寄せられた。一方、「統合報告書を開示していること、また、その内容が、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていること」は平均得点率（67%）に達しなかった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日本電産（総合評価点 84.0 点〔昨年度比+1.4 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（93%）、**説明会等**（87%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 7 位（75%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 8 位（90%）、**自主的情報開示**が第 15 位（64%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社長または会長が会社主催の説明会に出席していること」および「同説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していること」が最も高く評価された。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること」も最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「同説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」が共に最も高く評価された。また、「決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていること」が評価されたことに加え、「決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等）が適切に記載されていること」が満点評価となったほか、「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていること」も評価された。さらに、「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていること」、「売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に関し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が高く評価された。また、「説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応が実施されていること」は満点評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書を開示していること、また、その内容が、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていること」が平均得点率（67%）に達しなかった。一方、「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」が第 5 位となった。これに関し、重要な M&A については、発表当日に説明会を開催するなど適時開示の姿勢を評価する声が寄せられた。

第 3 位 オムロン（総合評価点 82.7 点〔昨年度比－3.8 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（95%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（85%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（78%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（84%）、**説明会等**が第 8 位（78%）となった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社長または会長が会社主催の説明会に出席していること」が高く評価されたことに加え、「同説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していること」も評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていること」が共に最も高い評価となった。なお、会社にとって厳しいことやリスクも積極的に伝えて欲しいとの声や、短期業績の情報・見通しの考え方がマーケットと乖離しているため混乱を招くとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が評価された。また、「決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていること」が高く評価されたことに加え、「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていること」が最も高い評価となった。さらに、「売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていること」が高く評価された。なお、主力の IAB の足元状況、業界ごとの構成比・伸び率など踏み込んだ説明を要望する声や、開示データが非開示になることがあり、継続的な分析が難しいケースがあるとの声が寄せられた。また、重要な子会社売却に関する説明会を求める声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に関し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が高く評価された。また、「ウェブサイトで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していること」が最も高い評価となった。さらに、「説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応が実施されていること」は満点評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が最も高い評価となった。これに関し、ESG 説明会でのガバナンスの説明が分かりやすかったとの声が寄せられた。また、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」も評価された。これに関し、ROIC 経営の内容について、特定期間の業績に照らし合わせた説明や社内評価の説明を要望する声が寄せられた。さらに、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書を開示していること、また、その内容が、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていること」が最も高い評価となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 日立製作所（総合評価点 82.6 点〔昨年度比+5.6 点〕、第 4 位〔昨年度第 6 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（84%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（94%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（84%）、説明会等が同得点第 4 位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 5 位（77%）となった。全ての分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点の上昇および順位の上昇につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社長または会長が、会社主催の説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していること」が評価された。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること」も評価された。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていること」が共に評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に関し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が高く評価された。また、「ウェブサイトで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していること」も高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。また、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」も評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書を開示していること、また、その内容が、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていること」が高く評価された。加えて、「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」も評価

された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。

○ 富士フイルムホールディングス（総合評価点 80.6 点〔昨年度比+5.7 点〕、第 5 位〔昨年度第 7 位〕）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第2位（83%）、フェア・ディスクロージャー（93%）、自主的情報開示（76%）が第4位、説明会等が第6位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第7位（79%）となった。全ての分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点の上昇および順位の上昇につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていること」が高い評価となった。
- ③ 説明会等においては、詳細な主要サブセグメントごとの売上情報の提供・取材時の丁寧な対応が高く評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に関し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が同得点第1位の評価となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。また、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」も評価された。さらに、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、ESG 説明会や医療事業説明会が実施され、その内容が有益であったとの声があった。

○ リコー（総合評価点 74.0 点〔昨年度比+7.4 点〕、10 位〔昨年度第 19 位〕）

同社は、フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅、順位の上昇幅共に第2位）につながった。

○ 日本電気（総合評価点 72.9 点〔昨年度比+9.3 点〕、第 11 位〔昨年度第 21 位〕）

同社は、全ての分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅、順位の上昇幅共に第1位）につながった。

（参考） 部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

ソニー（総合評価点 84.4 点、初の当部門第1位、全体第1位）

【電子部品部門】

日本電産（総合評価点 84.0 点、15 回連続当部門第1位、全体第2位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 80.6 点、初の当部門第1位、全体第5位）

以 上

2019年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5 (配点 31点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7 (配点 30点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目3 (配点 10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目3 (配点 15点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点 14点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6758 ソニー	84.4	26.8	2	26.0	2	9.4	2	12.1	3	10.1	6	3
2	6594 日本電産	84.0	28.8	1	26.1	1	9.0	8	11.2	7	8.9	15	2
3	6645 オムロン	82.7	26.1	3	23.5	8	9.5	1	12.7	1	10.9	2	1
4	6501 日立製作所	82.6	25.9	4	24.0	4	9.4	2	11.6	5	11.7	1	6
5	4901 富士フイルムホールディングス	80.6	24.4	7	23.9	6	9.3	4	12.4	2	10.6	4	7
6	6762 TDK	79.7	25.3	5	24.9	3	9.1	6	11.3	6	9.1	9	5
7	4902 コニカミルタ	77.8	23.1	11	23.0	9	9.2	5	11.8	4	10.7	3	12
8	8035 東京エレクトロン	77.6	24.8	6	23.6	7	8.9	9	11.2	7	9.1	9	3
9	7733 オリンパス	74.9	22.7	12	22.5	12	9.1	6	10.6	10	10.0	7	9
10	7752 リコー	74.0	23.7	10	22.7	10	8.0	17	10.6	10	9.0	13	19
11	6701 日本電気	72.9	23.8	9	21.1	18	8.4	15	10.1	14	9.5	8	21
12	7731 ニコン	72.7	22.4	14	22.7	10	8.4	15	10.2	13	9.0	13	14
13	6971 京セラ	72.3	22.6	13	21.5	14	8.8	11	11.2	7	8.2	17	13
14	7741 HOYA	72.0	24.3	8	24.0	4	7.7	18	9.8	16	6.2	23	18
15	6981 村田製作所	71.0	22.2	16	22.2	13	8.6	13	9.9	15	8.1	18	11
16	6702 富士通	70.8	22.3	15	20.2	19	8.6	13	9.5	19	10.2	5	17
17	6724 セイコーエプソン	70.2	21.4	18	21.2	17	8.8	11	10.4	12	8.4	16	16
18	6963 ローム	70.0	22.2	16	21.4	15	7.6	20	9.7	17	9.1	9	10
19	7751 キヤノン	66.2	19.8	20	21.3	16	7.7	18	9.7	17	7.7	20	20
20	6752 パナソニック	65.8	19.4	22	19.6	20	8.9	9	8.8	22	9.1	9	8
21	6503 三菱電機	62.0	20.0	19	19.4	21	5.2	23	9.4	20	8.0	19	22
22	6988 日東電工	60.5	18.5	23	17.8	23	7.4	21	9.3	21	7.5	21	15
23	6753 シャープ	59.0	19.5	21	17.9	22	7.1	22	8.0	23	6.5	22	未実施
	評価対象企業評価平均点	73.18	23.04		22.19		8.44		10.49		9.02		

2019年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 31点)	評価項目7 (配点 30点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 15点)	評価項目2 (配点 14点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	6758 ソニー	84.4	26.8	1	9.4	2	10.1	4
2	6645 オムロン	82.7	26.1	2	9.5	1	10.9	2
3	6501 日立製作所	82.6	25.9	3	9.4	2	11.7	1
4	6701 日本電気	72.9	23.8	4	8.4	6	9.5	5
5	6702 富士通	70.8	22.3	5	8.6	5	10.2	3
6	6752 パナソニック	65.8	19.4	6	8.9	4	9.1	6
7	6503 三菱電機	62.0	20.0	7	5.2	8	8.0	7
8	6753 シャープ	59.0	19.5	8	7.1	7	6.5	8
	評価対象企業評価平均点	72.56	22.98		8.32		10.28	9.50

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 31点)	評価項目7 (配点 30点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 15点)	評価項目2 (配点 14点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	6594 日本電産	84.0	28.8	1	9.0	2	11.2	3
2	6762 TDK	79.7	25.3	2	9.1	1	9.1	1
3	6971 京セラ	72.3	22.6	3	8.8	3	11.2	2
4	6981 村田製作所	71.0	22.2	4	8.6	4	8.1	5
5	6963 ローハム	70.0	22.2	4	7.6	5	9.1	1
6	6988 日東電工	60.5	18.5	6	7.4	6	7.5	6
	評価対象企業評価平均点	72.92	23.27		8.41		10.44	
							8.48	

2019年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャ－	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 31点)	評価項目7 (配点 30点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 15点)	評価項目2 (配点 14点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	4901 富士フイルムホールディングス	80.6	24.4	2	9.3	1	10.6	2
2	4902 コニカミナolta	77.8	23.1	5	9.2	2	10.7	1
3	8035 東京エレクトロン	77.6	24.8	1	8.9	4	9.1	4
4	7733 オリジンパス	74.9	22.7	6	9.1	3	10.0	3
5	7752 リコー	74.0	23.7	4	8.0	7	9.0	5
6	7731 ニコン	72.7	22.4	7	8.4	6	9.0	5
7	7741 HOYA	72.0	24.3	3	7.7	8	6.2	9
8	6724 セイコーエプソン	70.2	21.4	8	8.8	5	8.4	7
9	7751 キヤノン	66.2	19.8	9	7.7	8	7.7	8
	評価対象企業評価平均点	73.99	22.95	22.76	8.57	10.75	8.96	

2019年度 評価項目および配点(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (31点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①社長または会長が会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要な応じ適宜出席していますか。（前年7月から本年6月までの間）	4
②社長または会長が、会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
②経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (30点)	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
①決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。	5
②決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等）が、適切に記載されていますか。	3
③主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	3
(3)インタビュー等における開示	
①主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
②売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	3
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。	4
(3)外国人投資家向け情報提供	
・説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応（和英同時通訳、英語による開催あるいは事後の英語によるスクリプトの提供）が実施されていますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (15点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (14点)	配点
①統合報告書を開示していますか。その内容は、財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示となっていますか。	8
②工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）	6

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	嶋田 幸彦	三井住友 DS アセットマネジメント
部会長代理	浦 昌平	アムディ・シージャパン
	江澤 厚太	シティグループ証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	佐渡 拓実	大和証券
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	野村証券

評価実施アナリスト（73名）

相場 繁	野村アセットマネジメント	菅原 繁男	損保シージャパン日本興亜アセットマネジメント
秋澤 宏典	東京海上アセットマネジメント	杉浦 徹	大和証券
秋月 学	野村証券	妹尾 昌直	損保シージャパン日本興亜アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
石井 大樹	第一生命保険	田中 健士	みずほ証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
石田 重和	丸三証券	谷林 正行	QUICK
和泉 美治	SBI 証券	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
板倉 充知	損保シージャパン日本興亜アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	豊田 博幸	QUICK
今津 拓洋	アセットマネジメント One	中根 康夫	みずほ証券
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	竝川 伸一	りそな銀行
浦 昌平	アムディ・シージャパン	西村 美香	クレディ・スイス証券
江澤 厚太	シティグループ証券	西村 和哉	大和証券
大野 高	三菱 UFJ 信託銀行	引地 真二	アセットマネジメント One
大牧 実慶	立花証券	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岡崎 優	野村証券	藤原 重良	損保シージャパン日本興亜アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	堀 雄介	みずほ証券
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC 日興証券	水野 晃	UBS 証券
川島 隆治	大和証券投資信託委託	宮原 秀和	丸三証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	宮本 武郎	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	村上 貴信	岡三証券
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	松村 泰武	三井住友 DS アセットマネジメント
小池 幸弘	UBS 証券	森山 久史	JP モルガン証券
甲谷 宗也	野村証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	安田 秀樹	エース経済研究所
小宮 知希	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	山崎 雅也	野村証券
斉田 健一	みずほ証券	山田 幹也	みずほ証券
榮 哲史	大和証券	宮本 剛	UBS 証券
佐渡 拓実	大和証券	葭原 友子	大和証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	和田 一真	三井住友 DS アセットマネジメント
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	和田木 哲哉	野村証券
芝野 正紘	シティグループ証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
嶋田 幸彦	三井住友 DS アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。